

印象派の絵画に入り込む没入体験ミュージアム「Immersive Museum」 鑑賞者の動きに連動する“インタラクティブ展示エリア”を新たに公開 ルノワール、カイユボットが描いた作品の数々が意思を持って動き出す！！

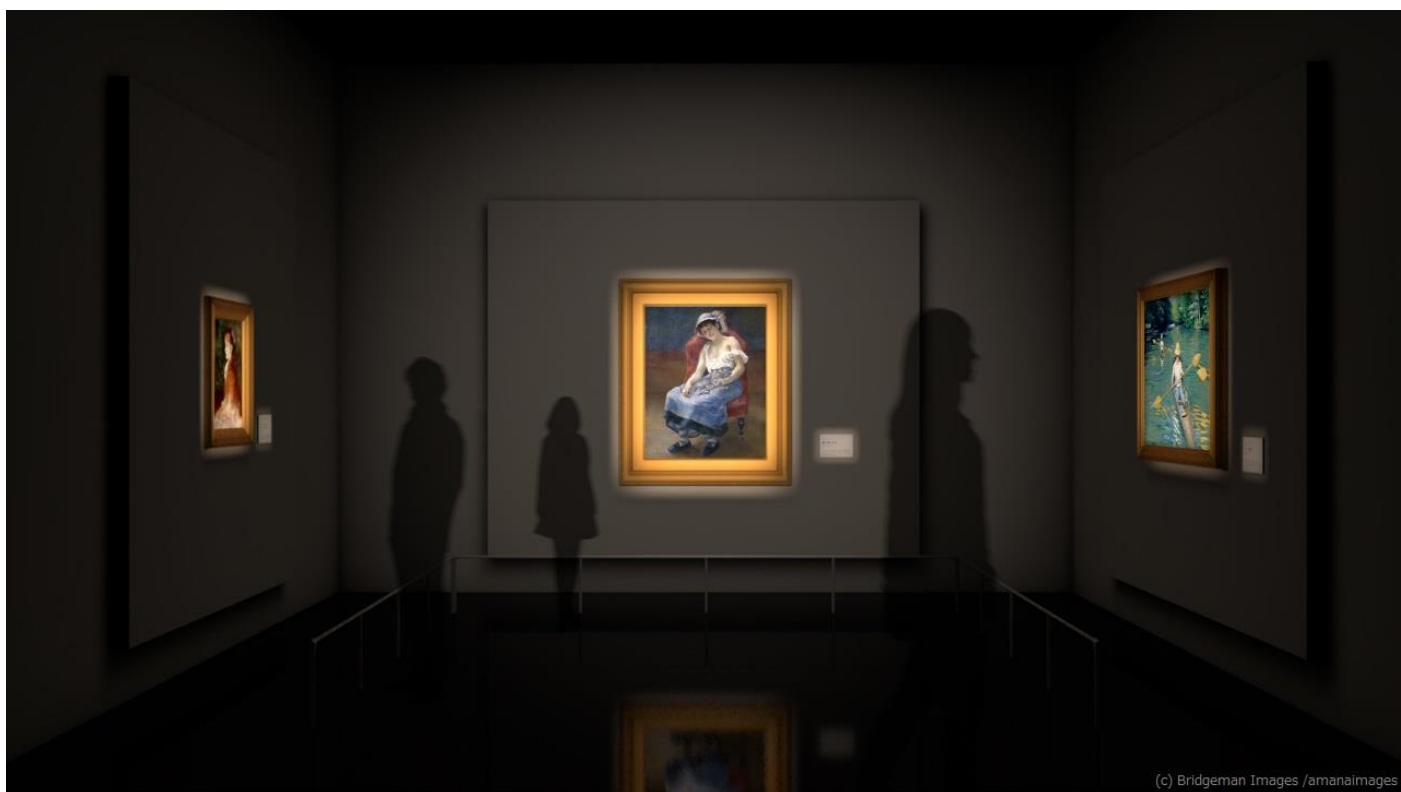
開催日時：2020年4月17日（金）～8月12日（水）
開催場所：寺田倉庫 G1ビル（東京都品川区東品川 2-6-4）
公式サイト：<https://immersive-museum.jp/>

Immersive Museum実行委員会は、2020年4月17日（金）から東京天王洲の寺田倉庫G1ビルにて開催予定の、日本初の没入体験型ミュージアム「Immersive Museum（イマーシブミュージアム）」において、すでに発表済みのメイン没入空間に加えて、新たな体感コンテンツとして鑑賞者の動きに連動して名画が動き出す“インタラクティブ展示エリア”を設けることを発表いたします。

「Immersive Museum」は、近年演劇やアート、エンターテインメントのジャンルで世界的なトレンドとなっている“Immersive＝没入感”をキーワードとする、新たなアート体験プログラムです。立体音響効果と壁面・床面全てに投影される没入映像を組み合わせ、広大な屋内空間に印象派の作家たちの視点で見た作品世界を再現し、アートの“鑑賞”体験を大きく進化させます。参加者はその空間内を自由に歩き回ることができ、あたかも全身で名画の世界に入り込んだような究極のアート体験が可能になります。

“印象派” IMPRESSIONISMをテーマとする今回の展示では、モネを中心とした印象派名画への没入映像上映で構成されたメイン空間に加えて、今回新たに発表する“インタラクティブ展示エリア”を通じて、全く新しい絵画への没入体験を提供します。インタラクティブエリアでは、最新のセンシング技術を用いて鑑賞者の動きを感知、その動きに連動する形で、ピエール＝オーギュスト・ルノワールやギュスターヴ・カイユボットらが描いた名画が、あたかも意思を持っているかのように動き出します。鑑賞者の「目線」、「動き」、「向き」によって動き出す、美術鑑賞にとどまらない名画の没入空間にご期待ください。

その他、「Immersive Museum」の詳細につきましては、順次公開予定です。最新の情報に関しては、公式HPおよび公式Twitter(@MuseumImmersive)、公式Instagram (@immersive.museum)にてご確認ください。



<本件に関するお問い合わせ先>

Immersive museum PR 事務局（株式会社ベクトル）担当：植田・尾之内・松葉・濱村

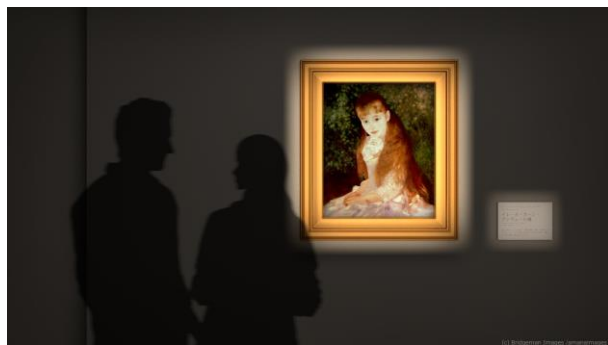
TEL:03-6679-6307 FAX:03-5572-6075

■ インタラクティブ展示エリアについて

インタラクティブ展示エリアは、約1400㎡の巨大空間でImmersive Museumのメインプログラムとなる没入映像体験を十分お楽しみいただいた後、別空間に設けられます。

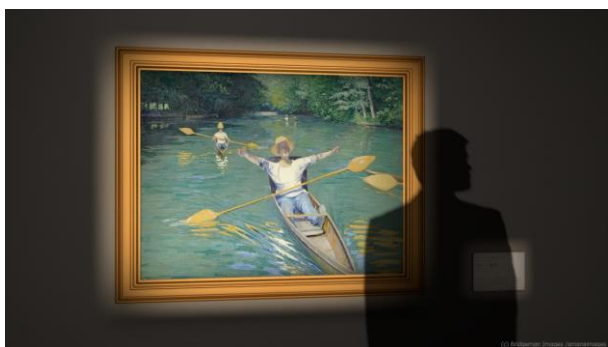
インタラクティブ展示エリアのテーマは「呼吸する絵」。一見、印象派の美術展の展示室のように見える空間内には、「少女イレーヌ」（ピエール＝オーギュスト・ルノワール作）、「猫と眠る少女」（ピエール＝オーギュスト・ルノワール作）、「ボート漕ぎ」（ギュスターヴ・カイユボット）の3作品のデジタルアートが掲げられています。それぞれの作品の前に立つと、絵画が鑑賞者の目線や動作を検知。その動きに応じて絵画の中に描かれた人物や風景がまるで意思をもっているかのように動き出し、通常美術鑑賞では感じることができない絵画の息づかいを感じることができます。

【少女イレーヌ】



印象派の絵画のうち、最も美しい肖像画の一枚とも称される「少女イレーヌ」の肖像。鑑賞者から目をそらすように斜め前方に顔を向け、ちょっとシャイな性格を思わせるイレーヌの姿。この140年前の少女イレーヌの顔を、鑑賞者の視線や向きにあわせて変化させるプログラム。果たして鑑賞者は少女イレーヌと目をあわせることができるでしょうか？

【ボート漕ぎ】



水辺の風景を数多く描いたカイユボットの代表作。鑑賞者が目をそらした瞬間、進むボート漕ぎの男性の姿が生き生きと動き出し、ちょっとした変化がおこります。カイユボット家の別荘の近くを流れるイェール川の美しい情景と、そこに描かれた人の息づかいを感じられるプログラムです。

■ 展示作品情報

クロード・モネ

「睡蓮」、「印象 日の出」、「ラ ジャポネーズ」、「積みわら」、「ロンドンの国会議事堂」、「ルーアン大聖堂」

エドガー・ドガ

「バレエの舞台稽古」、「舞台の踊り子」、「オペラ座のオーケストラ」

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」、「少女イレーヌ」、「猫と眠る少女」、「陽光のなかの裸婦」

カミーユ・ピサロ

「霜」、「収穫」

ベルト・モリゾ

「身支度をする女性」、「読書」、「モルクールのリラの木」

アルフレッド・シスレー

「秋、ブーヅヴァル付近のセーヌ河畔」、「曇天のサン・マメス」

ギュスターヴ・カイユボット

「ボート漕ぎ」、「床を削る人々」

メアリー・カサット

「お茶の時間」、「マルリーの庭で編み物をするリディア」

■ 実施概要

イベント名: Immersive Museum(イマーシブミュージアム)

期間: 2020年4月17日(金)~2020年8月12日(水)

場所: 寺田倉庫G1ビル(東京都品川区東品川2-6-4)

アクセス: りんかい線 天王洲アイル駅 B出口より徒歩4分

東京モノレール羽田空港線 天王洲アイル駅 中央口より徒歩5分

京急本線新馬場駅から徒歩10分

JR品川駅港南口から徒歩20分

主催: Immersive Museum実行委員会

株式会社電通、株式会社ドリル

佐々木ホールディングス株式会社、株式会社エイド・ディーシーシー

動画URL: <https://www.youtube.com/watch?v=ti318M28-4g>

公式サイト: <https://immersive-museum.jp/>

公式 SNS: Twitter <https://twitter.com/MuseumImmersive>

Instagram <https://www.instagram.com/immersive.museum/>

Facebook <https://www.facebook.com/immersivemuseum/>

チケット: 各チケットプレイガイドで発売中(イープラス / ローソンチケット / チケットぴあ)

入場券: 大人 2,500円(税込) / 中学生・高校生 1,500円(税込) / 小学生 800円(税込)

※小学生未満は入場料無料です。会場にて当日券もお求め頂けます。

監修：早稲田大学文学学術院 坂上桂子教授

協賛：寺田倉庫

主管／企画制作：株式会社ドリル、株式会社電通

■ Immersive Museum について

世界的に著名な芸術作品を映像コンテンツ化し、広大な屋内空間の壁面と床面全てを埋め尽くす没入映像と立体音響体験を提供する新感覚体験型アートエキシビジョンです。従来の「鑑賞型」の芸術鑑賞のスタイルから「没入型」のスタイルを提供し、来場者に新たな芸術鑑賞の「視点」を提示します。従来の美術館のようなアナログアートから、最先端のデジタルアートへ新時代のアートコンテンツを展開し、日本のアート体験を拡張する“アート2.0”の象徴が「Immersive Museum」です。

<本件に関するお問い合わせ先>

Immersive museum PR 事務局（株式会社ベクトル）担当：植田・尾之内・松葉・濱村

TEL:03-6679-6307 FAX:03-5572-6075